

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-6-1 高速道路網の整備
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	高速道路推進課長 舟津修亮	電話番号	0852-22-6271
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	高速道路利用促進事務		
目的	(1) 対象	高速道路利用者	
	(2) 意図	利用促進策を実施し、すでに供用された高速道路の利用台数の増加と交流による沿線地域の活性化を図るとともに県内未開通区間の整備促進を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の整備促進のための予算確保には、既存の高速道路の利用促進による事業の必要性を訴えていくことが不可欠であり、高速道路の利用促進のための情報収集やPRを行う。 ・利用促進活動を推進する上では、沿線自治体や経済界による取り組みが不可欠であり、島根県東部及び西部の高速道路利用促進協議会に対し、運営費の一部を負担し、連携した活動を行う。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 高速道路の利用台数(山陰自動車道で代表させる)	目標値		10,500.0	10,500.0	10,500.0	10,500.0	台/日
		取組目標値						
	式・定義 実績値/目標値	実績値	12,000.0	12,100.0				%
		達成率	-	115.3	-	-	-	
2	指標名 高速道路の利用台数(浜田自動車道で代表させる)	目標値		4,000.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	台/日
		取組目標値						
	式・定義 実績値/目標値	実績値	3,980.0	3,900.0				%
		達成率	-	97.5	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	3,399	3,672
うち一般財源(千円)	3,399	3,672

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> ・山陰自動車道の交通量は12,100台/日となり、昨年度より増加。 ・浜田道の交通量は3,900台/日にとどまり、特に利用台数の落ち込みが大きかったH26年のETC割引見直し以降、回復の兆しがみられない。 ・山陰道の整備に必要な予算を確保するためには、国に対して、その必要性を強く訴えていく必要があり、県西部の既存の高速道路の一層の利用促進が迫られている。
--

6. 成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路活用マップ作成、ふるさとフェアにおけるPR等により東部の高速道路利用台数の目標達成。 ・浜田道については、特別にNEXCO西日本がミニ周遊割引を実施。 ・NEXCO西日本より企画割引について一定の評価を得、H29年度も期間を拡大し、継続実施となった。
--

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田自動車道の交通量については、平成23年度から年々減少の傾向にあり、平成28年度は3,900台/日となった。 ・沿線の観光施設の入込客数についても減少傾向にあり、観光振興をはじめとする、県西部の産業の振興に影響を与えている。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田自動車道の利用者の減少について、ETC割引の縮小による高速料金の実質的な値上げの後、回復の兆しがみられない。 ・尾道松江線の開通により、時間短縮効果と料金的な割安感もあり、県東部地域の観光客が増大。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料金見直しから3年が経過し、その他の要因も分析する必要がある。 ・高速料金の有料・無料の東西不公平感(尾道松江線)を地域では感じている。 ・県西部の高速道路利用促進について、NEXCO西日本、県、関係部局と一緒にした利用促進策が必要。 ・東部地域に比べ、県西部は山陰道の整備率が低く、浜田道と一体となった効果を打ち出しにくい。 ・山陰道の整備促進のためには、物流機能の効果を訴え行く必要があり、大型車についても一層の利用促進していく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> ・広島で行われる「島根ふるさとフェア」やSA、各広報媒体を活用し、高速道路の開通情報などを積極的にPRし、特に県西部への高速を使った誘客を図る。 ・H27年3月の尾道松江線の全線開通を契機に、山陽・四国地方の新たな利用者獲得のため、東部・西部の利用促進協議会により、効果的なPRを実施する。 ・特に、県西部の高速道路については、NEXCO西日本と地元、県(商工、土木、西部県民C)沿線自治体で連携して料金割引企画の充実と、期間の拡大を図る。 ・山陰道の物流機能の効果を国に訴えるために、東部・西部利用促進協議会の活動については、観光周遊企画等の取り組みに加え、今後はトラック業界等の一層の利用促進を働き掛けるなど、山陰道の整備促進につながる取り組みを行う。
